

平成20年度愛媛・高知交流会議 議事録

日時：平成20年5月21日(水) 13:00～14:00
場所：高知県立坂本龍馬記念館(高知市)

【開 会】

(千葉高知県政策企画部長)

ただいまから、平成20年度 愛媛・高知交流会議を開催させていただきたいと思います。それでは、早速、意見交換に入っていただきたいと思います。まず、本県の尾崎知事の方から、口火を切っていただきたいと思います。それでは、よろしくお願いします。

(尾崎高知県知事)

本日は高知まで来ていただきありがとうございます。
今回の会場は坂本龍馬記念館とさせていただきましたが、坂本龍馬は脱藩する時に、橋原町から愛媛に抜けていった事実があるわけですが、大袈裟かもしれないかもしれませんが、今日に至る愛媛と高知の交流も、龍馬がとりもった縁でないかなあと考えております。
先日、私も愛媛の坊っちゃん劇場で好評を得ているミュージカル「龍馬！」のオープニングに私も参加させていただきました。そういったことから本日も龍馬つながりということで、この会場に加戸知事をお迎えしたものでございます。
ご覧のように、太平洋が260度見えるこの場所で、海を眺めながら大きな話題について率直に意見交換をしていきたいと考えておりますので、よろしくお願いします。

(加戸愛媛県知事)

愛媛におきましても龍馬脱藩の道は記念碑があるぐらいですから、本県にとっても坂本龍馬は英雄です。このような素晴らしい場所で開催していただくことを感謝いたします。

【テーマ1：中山間地域への総合対策の推進】

中山間地域への総合対策の推進

(尾崎高知県知事)

それでは本題の方に移りたいと思います。
まずは、今、地方が主役の時代であり、本県でも地方分権推進を大きなテーマとして取り組んでいるところですが、まずは中山間地域への総合対策の推進ということでお話をさせていただきます。
まず、高知県ですが、森林面積が86パーセントということもあり、中山間地域が多い訳ですが、2005年段階で高齢化率が26パーセントと、全国に10年先駆けて、高齢化が進展している状況にあります。高知県においては産業面からいいますと1次産品に強みがありますが、1次産品の主要な産地である中山間地域ほど、人口の減少が進んでいる状況にあります。
特に若者の人口が減っており、高齢者が取り残されている状況に大きな危機感を持っています。

平成20年度の予算編成にあたり、私のほうから職員に指示をして、中山間地域の生活を守る、中山間地域の産業をつくるということで予算編成をしました。

生活を守ることでいいますと、まずは簡易水道等の水源の確保や地元の小さな商店が行なっている移動販売のバックアップを実施することとしています。

また、中山間地域の産業づくりについては、産業を興すにはどうしても中山間地域では、土地の確保が難しい現状がありますが、それなりの現金収入につながっていくような、少量であっても高品質な町村の実情に応じた園芸作物づくり等の取り組みをしています。

愛媛県におかれましても、同じように中山間地域の取り組みを実施されていると思いますが、是非、教えていただければと思います。

(加戸愛媛県知事)

愛媛県も、森林面積が71パーセントと高知県に準ずるような構造になっているのではないかと思います。

特に南予エリアが高知県と同じような状況にあるのかなと思います。

先ほど、尾崎知事がおっしゃったように生活を守る点では、エリアの足を守るという発想で地域の福祉タクシー的な取り組みなどの動きがでています。

また、産業面の話としては、1次産業で力をつけていくには付加価値を付けて、販路を拡大するしかないのではないかなと思っておりますので、食品加工の分野で芽を出していこうと思っております。

また、農業の分野に限らず、外部からの資金協力も得て国の資金の協力も得ながらやっていく必要があるのではないかなと思っております。

(尾崎高知県知事)

はい、本県でも農業産品に付加価値を付けていくというのは大きな課題でございます。

これは、いつも言っているんですが、分母に農業産出額をとって分子に食品加工額をとりますと、本県はなんと全国46位なんです。

最も農産品を加工し売るということをやってこなかった県でありまして、今後、積極的に取り組んでいきたいところです。

また、今後、地域の振興に関しましては、財源対策が問題になってくるところですが、新たな過疎対策法が議論されているところでありまして、本県としても是非とも継続して欲しいと考えているところでありまして。

前日、増田大臣が大豊町に訪問されたおり、今、新たな過疎対策立法に関してメニューを考えているとのお話を聞きましたが、例えば、この太平洋沿岸には南海トラフがあり、近いうちに地震が確実視されていますが、東海地震には手厚い財政措置がとられているのに、南海地震対策には財政措置がとられていない状況にあります。

新たな過疎対策立法にあたっては、地震対策などもメニューに盛り込んでもらう等、(既存のメニューの) 存続プラス現在の課題もメニューに盛り込んでもらうことが大きな課題であると考えています。

(加戸愛媛県知事)

愛媛県にとっても、今の過疎地域自立促進特別措置法が平成21年度で失効しますが、その代替の法として、今、自民党の方でも議員レベルでの動きがありますが、新たな立法化をお願いしたいと考えており、四国4県が協力していきたいと思っています。ある意味死活問題かなと思っています。

(尾崎高知県知事)

話が変わりますけれども、総務省の定住圏構想については、人口5万人から10万人の都市

を核とし、地域の活性化をするものですが、具体的なメニューは今後つめられていくんだと思うんですが、一つ気になるのは、定住自立圏の定義として5万人から10万人の要件を満たすのは高知市以外にない訳でして、国に地域の実情に応じた柔軟性を持たせるよう議論の当初から要望してまいりました。国では概ねその方向で議論していただいているようですが、この件についてはいかがでしょうか。

(加戸愛媛県知事)

愛媛県においては、現在の定住自立圏構想だと人口5万人以上、昼夜人口比率1以上という中心市の要件に6の市が該当するのですが、地域の実情はみな違っており、もう少し地域の実情に応じた柔軟性が必要ではないかと思っており、愛媛県も高知県の立場を理解しております。

(尾崎高知県知事)

高知県としても検討の初期段階から要望してきましたので該当するところが、高知市のみとならないよう取り組んでいきたいと考えています。

団塊の世代を対象とした四国への移住・交流促進

(尾崎高知県知事)

続きまして、団塊の世代を対象とした四国への移住・交流促進ですが、これからも是非やっていく必要があると思っています。自然減はどうしようもないですが、人口の社会減に関しては、対策をとっていかねばならないと考えています。

高齢化が進むなか四国地域全体として移住・交流促進について連携を強化していきたいと考えています。

関東圏の人にとってみれば、高知は高知、愛媛は愛媛というよりも四国地域全体で考えているのではないかと思います。

今後、今まで以上に4県の担当者等の連携を強化したうえで、県外に対する四国地域というものをPRしていきたい、そのなかで各県が良い意味で競争していければと考えています。

(加戸愛媛県知事)

この問題は、4県連携事業で実施しているところですが、まさに「四国は良いとこ住みにおいで」と共同して進めることができる一つの分野だと期待しています。

また、昨年度は東京や大阪でのフェアの開催やモニター・ステイを実施したところであり、本県の場合には、地域によっては、5年間を上限として住んでいただいて、気に入った方に定住していただくことで成功しているエリアもありますし、条件的に移住に適した物件情報等の提供をしている地域もあります。

取り組みとしては4県がスクラムを組んでいく中で実施することが望ましいと考えております。

(尾崎高知県知事)

本県への移住を考えている方の住所地をみると関西が32.3パーセント、関東が16.9パーセントですが、関東の方にお話を聞いてみると四国は一つのイメージなんですね。

ですから、四国地域全体でPRするのは必要だと考えています。

(加戸愛媛県知事)

はい、外国の観光客を誘致する時も、四国4県でいかにと県単位でいってもどこにあるかもわからないですからね。

(尾崎高知県知事)

はい、おっしゃるとおりですね。

外国人観光客の方には、コストパフォーマンスの点からも、四国を堪能していただいてお帰りいただきたいですね。

今後、韓国、中国に向けたインバウンドフォーラムにも取り組んでいきたいと思っておりますが、そういった意味でも、是非、4県で取り組んでいきたいと考えています。

野生鳥獣被害防止対策への連携

(尾崎高知県知事)

続いて、野生鳥獣被害の問題がありますが、イノシシやシカには県境がないとNHKの知事対談の時にもお話ししましたが、伺ったところによりますと、愛媛県ではイノシシの被害が非常に多いとのことですが、本県ではシカの被害が非常に増してきているところでして、昨年の4月から6月にかけて調査したところによりますと推定生息数が4万7千頭という状況で、シカが樹皮をはいでしまったりして成木の被害が回復不可能な状況になったり、ゆずの樹皮まではいでしまっているような状況です。

この被害により山林が荒廃し、山崩れ、がけ崩れが起こってしまうような状況です。

先ほども申しましたが、シカやイノシシには県境がないですから、4県で共同して対策をとっていかねばならないということで、平成20年度は、4県共同のシカの生息調査を提案させていただいております。

高知としては、今後、より抜本的なシカ対策を打ち出していこうと考えていますが、新たな対策を打つ時には、情報提供も含めました連携をお願いしたいと考えています。

(加戸愛媛県知事)

本県の場合は、イノシシの被害が多く約3億円でシカの被害はその8分の1です。シカもイノシシも住民登録しているわけではないですから、高知、愛媛の間で連携プレーが必要不可欠です。

一緒に取り組みましょう。

森林の「CO2吸収認証制度」の普及促進

(尾崎高知県知事)

次に、CO2吸収認証制度の推進については、NHK知事対談においても加戸知事の賛同をいただきましたが、CO2吸収認証制度があることで、協働の森づくり事業を企業のCSR活動として数値化できることにより賛同を得ている状況でして、環境を守るのは高知県だけでなく、他の県でも一緒に取り組んでいただきたいと考えているところであります。

(加戸愛媛県知事)

このCO2吸収認証制度については、素晴らしい制度だと考えています。高知県の森林環境税についても愛媛県でも導入させていただきました。愛媛県でも県民共同参加の森づくりということで、今年になりましていくつかの企業から賛同をいただいております。

山が死んでしまう前に取り組みを行わなければならない、是非一緒にやらせていただきたいと思っております。今のシステムを是非、本県にも取り入れさせていただきたいと思っております。そのためには、CO2吸収量の算定基準の確立等が必要です。また、この制度はCO2排出量取引にもつながるのではと思っております。

【テーマ2：地域間の格差への対応】

四国高速道路8の字ルートの早期完成

(尾崎高知県知事)

それでは、続いてのテーマ、地域間格差の是正の問題です。

特に四国は都市との地域間格差が大きい状況にあります。このような中でインフラ整備を行なうことが地域間格差の是正に向けたスタートラインに立つことになると考えており、四国8の字ルートの整備が今後の大きな課題になるうかと思えます。

いずれにしろ、国の道路整備計画も10年から5年になりましたが、四国、特に高知県は整備率が低い状況にあり、限られた財源でどのようにしていくのかが大きな課題となっています。

都会の方々には、ご理解いただけないかもしれませんが、地方から道路整備を訴えるのはわがままではないと考えています

本県の西と東をつないでおります55号線、松山と高知を結ぶ56号線は、一車線や二車線で災害に弱い状況にあります。災害が起こった場合に地域を孤立させてしまうので、県民の安全安心確保の観点から災害に強い道路が必要だと考えています。

県民にとって重要な道路がきちんと整備されるように、4県で訴えていきたいと考えています。

(加戸愛媛県知事)

今年に入って道路特定財源の問題については、知事としてハラハラしながら動向を見守って参りましたが、今になってやっと一息つけたなと考えております。

一般のミャンマーのサイクロンや四川省の地震がありました。東南海・南海地震対策のためにも、先ほども、お話のあった56号線の災害救援ルートとして四国8の字ルートの早期完成が必要であると考えております。

道路特定財源の一般財源化問題については、財政出動を伴う道路整備の中期計画が10年から5年になりましたが、8の字ルートの整備については、国には何らかの延長をお願いしたい、また、8の字ルートについては、今後も4県で強力に訴えていく必要があると考えています。

また、観光面でも産業振興の面でも、災害対策の面からも8の字ルートは重要だと考えております。

(尾崎高知県知事)

8の字ルートの事業効果をしっかりと考える必要があると考えています。通行量のみでなく、本県では幹線道路で15,000時間、1日あたり40時間もの通行止めの時間がありますけれども、この通行止めが、高規格道路を整備することによって解消されたり、災害に強くなるなどの効果もありますので、そのような効果を含めたうえで事業効果を考えていただく必要があると思っています。

(加戸愛媛県知事)

今、社会問題化している医師不足の問題も8の字ルートは役に立つと考えております。防災ヘリコプターは天候が悪いと使用することができませんが、やはり確実にスピーディーに運べるのは、高速道路である8の字ルートではないかと考えております。これは、命にかかわることです。

(尾崎高知県知事)

高速道路については、四国の実情を踏まえたうえで、4県と協力して訴えていきたいと考えています。

(加戸愛媛県知事)

宿毛市と接する愛南町に一本松というところがあるのですが、そこまで道路が通らないと愛媛県に21世紀はこないと私は言い続けています。

高知県も宿毛市まで高速道路が来なければ21世紀がこないのではないかと。

(尾崎高知県知事)

はい、8の字ルートを創ることでどのような活用策があるか、どのようなことができるかということでビジョン作りなども重要だと思っています。

既存の人口等だけを基にするのではなくて、動態的人口等を基にした8の字ルートを活用した色んな振興ビジョンなどについて機会をみて議論させていただきたいと思っております。

(加戸愛媛県知事)

四国、特に四国西南地域では8の字ルートは命綱という感覚を都市部の方にも理解してもらいたいですね。

【テーマ3：中国・上海等をターゲットとした国際交流促進や産業の振興】

(尾崎高知県知事)

それでは次のテーマについて話をさせていただきたいと思います。

次は外に打って出るということでございまして、中国・上海などをターゲットとした国際交流促進や産業の振興ということで、お話をさせていただきたいと思います。

今までも4県連携事業などで、上海などで見本市に出展してきた経緯がありますけれども、本県は、今まで全国的に見ても輸出が少なかった訳で、輸出の拡大に向けて力を入れていくべき時期にきたと考えています。

また、本県は外国人観光客が他の県に比べて少ない状況にありますから、今後、4県で連携をしながら韓国、中国等から観光客の呼び込みをおこなっていきたいと考えています。

上海事務所については、愛媛県さんに対しても協力できることは協力するという形でいかせていただきたいと思います。よろしくお願いします。

(加戸愛媛県知事)

この課題につきましては、橋本知事の時にも上海高知・愛媛事務所をお作りになったつもりで相乗りさせていただきたいとお話したことがあったのですが、外国に事務所を設置する場合は、高知は高知、愛媛は愛媛の時代ではなく共同の時代だと私は思っております。

産業構造の違いもあり、愛媛に比べて高知は、輸出額が100対1と少ない状況にあります。高知が力を入れておられる上海事務所について「庇を貸して母屋を取る」つもりはありませんので、是非協力いただきたいと思います。

(尾崎高知県知事)

はい、観光面などでは、四国という地域で捉えれば、単県で実施するよりも4県連携で実施するほうが外国人観光客に来ていただきやすくなると思いますので、PRを4県連携事業として実施していくことが必要だと考えております。

また、FHCなどで4県が連携したと聞いておりますが、そのときに高知のグロリオサも好評で、本県もやっと輸出に向けた幕開けの時代に来たと考えております。

一昔では考えられなかった話ですが、品質の高いものを追求してきたわが国農産物が、中国

などで高値で受け入れられるようになってきました。

物流が少なくとも高品質、高付加価値の農産物を、それぞれがみかんの産地、花の産地、園芸の産地等として役割分担しつつ、共同して輸出の促進をお願いしたいと考えています。

(加戸愛媛県知事)

赤色の商品もあり、黄色の商品もあり、緑色の商品もある、そうした中で、どの商品に食いついてくるかは、相手方の好みや計算もありますけれども、4県共同で、それぞれの個性を生かした形でそれぞれの産品を出品し、その中で相手方を選んでいただいて、その結果として四国の輸出量が上がっていくのが理想だと思っております。

単県ではなく、4県で連携して中国、シンガポール、台湾それからタイに共同して売り込んでいく、そうすることでコストダウンにもつながるし、成果も上がるのではないかなと私は思っております。

(尾崎高知県知事)

はい、本県はスタートしたばかりの段階にありますから、大きな方向性としてできるだけ、協力させていただく必要があり、上海事務所の活用なども長期的な課題として検討させていただきながら、その他商談会等について4県での連携を行っていきたいと考えています。

【テーマ4：地方税財源の充実・強化について】

(尾崎高知県知事)

はい、続きましてテーマ4として「地方税財源の充実・強化」でございます。

安定した税財源の確保がなければ、地方は成り立たちません。

また、道路特定財源の暫定税率については、必要な道路整備があるなかで、地方にとっては必要不可欠なものであったと考えております。

地方交付税が調整機能をしっかり果たすように財源の確保にとどまらない地方交付税の充実強化について地方として協力してやっていかなばならないと考えております。

今後、地方間の財政・税財源の格差問題については、今後、議論されていくものだと思いますが、財政の弱いところに傾斜配分をすることが必要ですし、地方消費税の充実についても今後の税制改革のなかで議論いただく必要があると考えています。

(加戸愛媛県知事)

さきの三位一体改革で地方交付税が全国で5兆1千億円、愛媛県で臨時財政対策債も含めて518億円がカットされました。一方、社会保障の義務的経費がこの5年間で221億円増加し、その他経費も合わせると449億円増加しました。

518億円の収入が減って、経費等が449億円増加し、トータルで967億円の経費がかかり、愛媛県としても非常に厳しい状況であり、高知県も同じような状態だと思いますが、一体いつまで生きていけるのかと思っておりますが、職員の給与を含めたあらゆる経費をカットし努力をしてきました。

現在、後期高齢者医療や、介護保険などの社会保障費は地方にとっても大きな負担となっており、今般の税制改革においては、地方消費税の拡充による地方税財源の充実について全国知事会として声をあげていく必要があると思っております。

(尾崎高知県知事)

全国知事会の地方消費税特別委員会に私も出席し、発言させていただいているんですが、地方の財政の現状について、国にも分かりやすい言葉で伝えていく必要があるのではないかなあと思っております。

国は国債等をはじめとしたファイナンス能力が非常に高いと思いますが、他方、地方はその能力が極端に低く、歳出を切り詰めざるを得ず、公共事業費はピーク時の7割カットの状況にあります。

裁量的経費はわずかしかない状況で、中山間対策などの政策を実施している状況にあります。

また、歳出削減のための採用抑制により、現在、高知県職員の40歳以上の職員の占める割合は74パーセントとなっており、無理を重ねていることから10年後、20年後の高知県庁をどうしていくか危惧しています。

10年前ならまだしも国に比べて地方は歳出を徹底して削減しており、国の言うような無駄遣いはないと考えております。

(加戸愛媛県知事)

そうですね。まず国は、方針として2011年に国のプライマリーバランスの実現を目標としており、まずは歳出削減としています。

また、毎年の骨太の方針においても歳出歳入均衡を言及しており、毎年、社会保障関係費2,200億円の歳出カットをしていかなければならない計算勘定があって、国の予算編成がされていますが、その枠内で全てがセットされて、知らない間に社会保障関係費などの請求書がきて、こんな経費まで県が負担しなければならないのかという形になってきている。国で帳尻があっても地方で帳尻が合わない状況もあり、国においては地方の財政もセットで考えていただかないといけません。

国には究極には税金を上げるなどの方法もありますが、県が法定外課税を行うには総務大臣との協議等が必要であり事実上、自主課税権もない、自由に借金もできない、手足を縛られた状況で請求書ばかり回ってくる状況について国にも理解していただきたい。また、このことは国民にも県民にも分かっていたいただきたいと思っております。

社会保障などの制度変更に関しては、制度が出来上がった後で、請求書だけが県にあがってくる場合もあり、制度改革と負担は一体でお願いしたいというのが切実な思いです。

(尾崎高知県知事)

そうですね。地方として国にしっかりと実情を伝えていくことが大事ですね。

国においては、「各県の特異な事情」という捉え方をされる場合もありますので、その際には連携する必要があると考えております。

また、国民の皆様、県民の皆様にもっと実情を訴えていく必要があるのではないかと考えています。

本年は、地方再生対策費や地方法人特別譲与税の創設もあり、また、地域間格差についての本格的な議論もはじまるなど、地方財政にとってはまさに正念場でありまして、今後とも愛媛県とも連携していきたいと考えております。

(加戸愛媛県知事)

財政は、鶏が先か卵が先かの問題がありますが、現在の地方の財政状況は「程度」の問題だと思っております。

手遅れにならないうちに、将来の安全安心確保に向けて、地方消費税などの問題について訴えていく必要がありますね。

(尾崎高知県知事)

はい、いくつかのテーマについて意見交換していただきありがとうございます。

四万十川の清流保全について

(尾崎高知県知事)

最後に一つだけ、恐縮ですが、高知県から愛媛県にお願いがございます。

四万十川の清流保全ですが、広見川の濁水防止につきまして、これまで四万十川・高知愛媛連携推進協議会において愛媛県内の流域市町村には、農家に対して濁水防止のチラシを配布していただくとか、ご協力いただいていたところですが、地元の住民の方の意見をお聞きすると、まだ、濁水が流れこんでいる場合もあるとのことでした。

四万十川は、本県にとりましても、日本にとっても貴重な財産として最後の清流として守るために今後とも連携をお願いいたします。

(加戸愛媛県知事)

愛媛県側としましても、四万十川上流域としてきれいな水を作る責任があると考えております。

引き続き協力していきたいと考えております。

花・人・土佐であい博や全国育樹祭等について

(尾崎高知県知事)

よろしく申し上げます。1時間にわたり意見交換していただきありがとうございました。最後になりますが、本県では花・人・土佐であい博ということで、イベントを開催しております。

花・人・土佐であい博では、特定のパビリオンを設けず、県内各地域、地域で様々なイベントを行い、高知県を満喫いただくイベントでございますが、そのなかでも花と人をテーマとさせていただきます。

本県は、花もお楽しみいただくとともに高知県特有のおもてなし、夜のお客などを含めて楽しんでいただきたいと思います。

先日も、高円宮妃殿下をお迎えし、フラワーフェスティバルを開催いたしましたところ、目標数の2万人を大幅に上回る4万人の方にきていただきました。

また、丘陵の地形を生かした全国的にも珍しい牧野植物園におきまして、五台山花絵巻も見どころがございますし、モネの絵を3次元で忠実に再現した北川村のモネの庭も、全国的にも例のないものでございますので、是非、愛媛の多くの方にもおいでいただきたいと思っております。

それと坊っちゃん劇場でミュージカル「龍馬！」を見ていただいた後には桂浜の龍馬さんにも会いに来ていただきたいと思っております。

(加戸愛媛県知事)

私の方からも愛媛県のPRをさせていただきたいと思っております。

今年の10月25、26日に全国育樹祭が皇族殿下にお見えいただいておりますが、高知県と同様に愛媛県も森林県ですから、森の再生を頑張っている姿を全国へ発信したいと思っておりますので高知県からも是非多くの方にご参加いただきたいと思います。

また、坊っちゃん劇場のミュージカル「龍馬！」もこの10月下旬から11月上旬にかけて高知県で公演をされると聞いております。これも県内高校生の皆さんをはじめとした多くの方

にご参加いただけると聞いております。

(尾崎高知県知事)

今日は、龍馬の取り持つ縁ということで、1時間にわたり意見交換をしていただきありがとうございました。

来年度開催について

(千葉高知県政策企画部長)

両知事さん、1時間に渡り意見交換をしていただきありがとうございました。

愛媛高知交流会議につきましては、来年度は愛媛県で開催いただくことになっていますが、加戸知事のほうから、一言お願いできますでしょうか。

(加戸愛媛県知事)

今日は本当に絶景でやっていただきましたので、愛媛県でも場所探しに苦慮するなと感じております。ここに負けないぐらいの場所を探して愛媛・高知交流会議を開催いたしたいと思えます。

よろしく申し上げます。

(千葉高知県政策企画部長)

どうもありがとうございました。

これをもちまして交流会議を終了させていただきます。

ご参加のみなさん、どうもありがとうございました。